

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

1. 幼児教育と小学校教育について

【幼児期では遊びを通した総合的な指導】

「やってみたい!!」があふれる多様な体験を通して、子どもが自ら興味をもって遊びに向かい、「これはどうなっているのだろう!?!」「こうするにはどうしたらいいかな!?!」と探究心をもち、工夫を凝らし、試行錯誤を重ね、没頭しながら遊びを深めていくことで学びの芽を伸ばしていく。

接続のポイント
互いの特徴を理解して
つないでいくこと



幼児教育における遊びの中での直接的・具体的な体験を通した学びは、客観的・抽象的な認識や思考が発達していく小学校生活や学習の基盤となっていく。

【小学校では各教科等の目標・内容に沿って選択された教材による授業】

児童が学ぶことへの自覚があり、各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。また、個別の学習活動だけでなく、協働的な学習活動ができるようになる。

2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより
幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」である

※これらは到達目標ではなく、一人ひとりの発達に応じて育っていく。

小学校では10の姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施していくことが望まれる。

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識の
芽生え

社会生活
との関わり

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

思考力の
芽生え

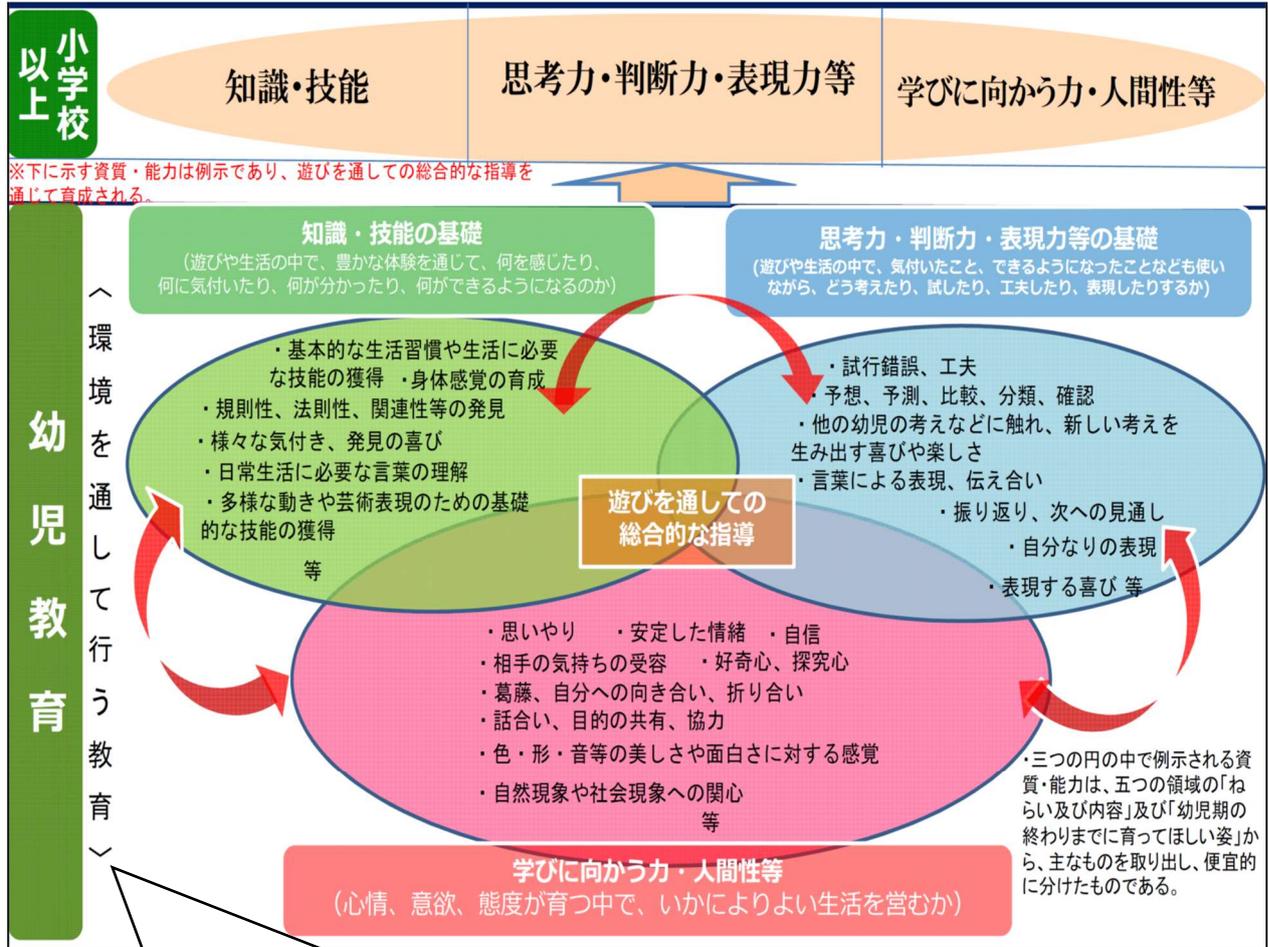
自然との関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字など
への関心・感覚

言葉による
伝えあい

豊かな感性と
表現

3. 教育において育みたい3つの資質・能力について



(参考) 文部科学省 幼児教育部会における審議のとりまとめ

【環境とは・・・】

ヒト・・・友だち、先生、家族、地域の人々などそれらが形づくる人間関係やその中での社会的な役割など、それらが形づくる人間関係や、その中での社会的な役割など、それらが醸し出す雰囲気や意識、価値観などを含めた人的環境

モノ・・・園舎や遊具、自然物や素材などをはじめ、情報機器や絵本など広く社会文化情動的なものを含めた物的環境

コト・・・広く時間や空間などのほか、これらの様々な環境が相互に関連し合って作り出す状況そのもの(出来事)等

【子どもの心を動かすしかけづくり・自発性を引き出し、学びの芽が育まれる環境構成】

- 子どもの「やってみたい！」が育まれる環境
- 子どもが材料・素材・用具を使いやすい環境
- 子どもの興味や関心に寄り添った環境
- (教師→子どもやってみたくなる言葉がけ・発見を受け止める・共感する・気づきを促す言葉がけ)
- 失敗や試行錯誤ができる環境
- 五感を通して豊かな感性が育まれる環境
- 科学的な思考の芽生えが育まれる環境
- 文字・数量・図形の感覚が育まれる環境
- お互いの思いや感じたことを伝え合える環境

(出典：市立幼稚園 相互参観アンケートより一部引用)